

研究結果報告書

研究結果

本研究は、20 世紀前半の、モンゴル地域をとりまく内外の状況を視野に入れながら、現地でのオーラルヒストリー調査と文献収集によって得られた情報源を基礎に、満洲国と蒙疆政権時代における内モンゴルの音楽事業に焦点をあて、近代的内モンゴル人の最初の音楽団体はどのように組織され、どのような活動が行われたかを考察した。それと同時に、モンゴル民族に対する当時の日本の文化政策、日本人におけるモンゴル音楽についての研究も分析し、それが内モンゴルの音楽者たちが目指した文化刷新運動との連動も注目した（論文「20 世紀上半葉日本対蒙古音楽之研究（20 世紀前半における日本人のモンゴル音楽研究）」）。

本研究は、中国の内モンゴルや北京、遼寧省等の諸文書館、図書館、モンゴル国立中央文書館で、1930、40 年代の内モンゴル地域でつくられたモンゴル民族の音楽作品、モンゴル人学校で使われていた音楽の教科書、モンゴル音楽促進会会則など音楽団体の資料などを収集し、当時の内モンゴルの音楽が吹き込まれたレコードをも分析し、「復興したモンゴルの歌」などの歌の楽譜を復元したほか、これらの音楽作品の主題、性格、特徴を検討し、チンギス・ハーンをたたえ、全内モンゴル人の自立、モンゴル民族の振興などが、この時代の内モンゴルの音楽の特徴の一つであると指摘した。また、徳王の西ウジュムチン旗王府楽団、満洲国のモンゴル音楽促進会（1937～45 年）など、モンゴル人の音楽団体の活動を明らかにすることができた（論文「1930、40 年代における内モンゴル地域の民族音楽」）。

本研究の成果として、論文「1930、40 年代における内モンゴル地域の民族音楽」を 2011 年 8 月にウランバートルでおこなわれた国際学会でモンゴル語で発表したほか、中国語で中国の学術雑誌でも掲載した。日本で出版する図書にも掲載する予定である。これらの成果をとおして、1930、40 年代に内モンゴル地域のモンゴル民族の音楽文化の状況を知ることができ、モンゴル民族がかつて所有していた生活・文化空間の視座をある程度、提供できたと思う。また、20 世紀前半の内モンゴルと日本の音楽交流史の一側面をも理解することができた。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

1. “Mongolian Music in 1930-40s in Inner Mongolia”, The Fourth International Symposium in Ulaanbaatar “The History and Culture of Mongols in the 20th Century”, 2011.8.16-17, Mongolia-Japan Center For Human Resources Development, Ulaanbaatar, Mongolia.

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

1. 「二〇世紀三、四〇年代内蒙古地区的蒙古族音楽」(中国語)『内蒙古芸術』2011年第1号。
2. 「1930、40年代における内モンゴル地域の民族音楽」(日本語・モンゴル語対照)『20世紀におけるモンゴル諸民族の歴史と文化』風響社、2012年1月出版予定。
3. 「20世紀上半葉日本対蒙古音楽之研究」『内蒙古芸術』2012年第2号(中国語、投稿中)。

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)